

6月3日(月)に鳥取大学の矢部敏昭教授をお招きして研修会を開催しました。研究テーマ「未来へつなぐ教科・領域の授業づくり(3年次)」の成果をどのように求めていくのか、「学びのプロセス(過程)」、「評価」と関連づけながらご示唆いただきました。

「子供たちの学びは、学習の過程に存在する」ということを大事にしながら日々の授業づくりに励みたいと思います。



鳥取大学 矢部敏昭 教授による講話

～以下、6月に行った校内研修です。～

理科部では、「科学的に問題解決をする力の育成に視点を当てた授業づくり」を研究テーマに挙げています。

多くの情報から必要なものを判断して自らの問いをもち、科学的に問題を解決するプロセスを重視する必要性を確認しました。



理科の研究提案

算数部は、「算数の問題解決における図の利用に着目した授業づくり」を研究テーマに挙げています。必要な情報を見出して数学的な視点で見えていき、根拠を問いながら問題を探究していくプロセスの重要性を確認しました。



算数科の研究提案

6月7日(金)に茨城大学教育学部的小林祐紀准教授を招いてプログラミング教育授業研修会を開催しました。2年(国語科)、4年(理科)、6年(算数科)の授業を公開しました。校外の先生方の参加もあり、多くの学びが得られた1日となりました。

小学校におけるプログラミング教育の目的は、「プログラミング的思考」を育むことや教科での学びをより確かなものとするためのものであることなどを確認しました。本校では、4～6月を「知ろう」期間【プログラミング的思考について知る】7～12月を「学ぼう」期間【教科の中に少しずつちりばめて、浸透させる】1～3月を「広げよう」期間【プログラミング教材で体験する】と位置づけて実践しています。



茨城大学 小林祐紀 准教授による講話

研究通信では、校内研究授業や研修の様子を随時、紹介していきます。この度は社会科の校内授業研究会と研修会について紹介します。※鳥取大学附属小学校は、月曜日を研究日としています。（祝日や行事などで変更する場合があります。）

### 社会科校内研究授業

「自分を取りまく社会や環境に興味を持ち続け、多面的な見方や考え方を身につける児童の育成」の研究テーマのもと、社会科の授業公開「わたしのまち みんなのまち～市の様子～3年生」がありました。鳥取砂丘の周りについて写真と地図を比較することを通して、砂地でとれる作物に気づき、土地利用に考えをつなげることができることをねらいとした授業でした。写真と地図の比較で、児童に疑問を持たせる工夫が見られました。

研修会では、授業の目標がどの程度、達成できていたか（目標と実践の一致）を丁寧にふりかえることや多面的な見方を子供に持たせるための手立ての必要性などについて協議しました。鳥取大学の高橋健司教授にも参加していただき、授業づくりについての学びを深めることができました。



研究授業のリフレクションをする職員①



研究授業のリフレクションをする職員②



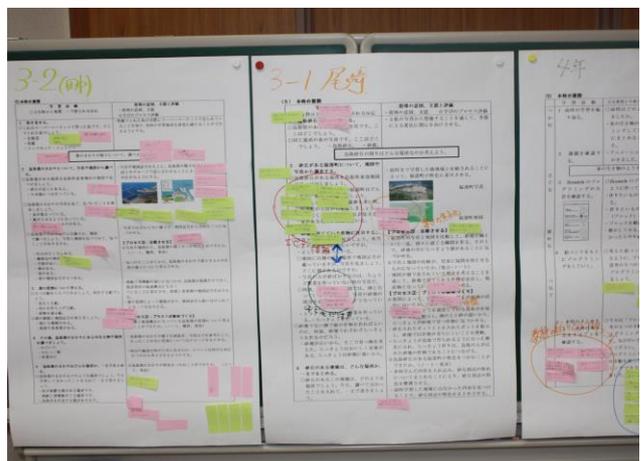
資料を比較して考える児童（研究授業より）



鳥取大学 高橋健司 教授（右）による助言



資料で学びを整理する児童（研究授業より）



研修会で提案された授業の改善案